

令和4年度第1回各務原市総合教育会議議事録

I 日 時 令和4年7月13日（水）午後3時30分～午後5時10分

II 場 所 産業文化センター2階第3会議室

III 出席者

（構成員）

市 長 浅野 健司

教育長 加藤 壽志

教育委員 大友 克之、大堀 憲、和智 陽子、林 ゆり、小島 聡太郎

（教育委員会事務局）

事務局長 横山 直樹、参与兼教育施設整備推進室長 牧田 洋之、

総務課長 足立 勉、学校施設課長 嶽 翁輔、学校教育課長 林 香里、

図書館長 新居 美保、青少年教育課長 三輪 史子、文化財課長 西村 勝広、

スポーツ課長 飯沼 利行、少年自然の家所長 奥村 祐輔、

学校給食センター所長 和田 雅仁

（市長部局）

産業活力部長 鷲主 英二、いきいき楽習課長 小林 由孝、

企画政策課長 水野 博之

（書記）

教育委員会事務局総務課主幹 堀 善子、教育委員会事務局総務課主幹 小川 大介、

教育委員会事務局総務課主事 砂川 雄哉

IV 内 容

1 市長あいさつ

2 協議・調整事項

（1）令和4年度教育方針等について

（2）ICT教育の現状と今後の展開について

（3）その他

V 協議・調整事項の結果

（1）令和4年度教育方針等について

市 長 それでは、議事に入ります。

本日は、第1回会議となりますので、今年度の教育方針や主要施策等について委員の皆様と意見交換できたらと思います。

それではまず、事務局から説明をお願いします。

教 育 長 （令和4年度学校教育について、資料により説明）

総 務 課 長 （令和4年度の主な事業と予算について、資料により説明）

学校施設課長 （学校建替基本方針策定事業について、資料により説明）

施設整備推進室長 （新特別支援学校整備事業について、資料により説明）

いきいき楽習課長 （文化会館動画配信設備整備事業について、資料により説明）

施設整備推進室長 （新総合体育館・総合運動防災公園整備事業について、資料により説明）

- 市長 説明が終わりました。只今の説明についてご質問等はございますか。
それでは、今事務局から説明のあったことや、説明はありませんでしたが資料に挙げられている事業を中心に意見交換をしていきたいと思えます。まずは、教育方針や資料にある個別事業について、委員の皆さんからご意見を頂戴したいと思えます。
- 大友委員 令和4年度学校教育について、特に特別支援教育の推進、不登校対策に力を入れるという点、大変良いことと思えます。こういった事業は、数値目標を立て、取り組んでいく必要があると思えます。現場の努力に期待したいと思えます。
また、新特別支援学校整備事業ですが、施設は一度造ってしまうと、施設に運用等が拘束されてしまうため、現場の意見以外にも、先進地の取組み等を取り入れて良いものを造っていただきたいと思えます。
- 大堀委員 先日学校訪問した時、支援が必要な子のクラスがきめ細やかに分かれていて、きめ細やかな先生方の対応があり、大変良いと感じました。一方で、教員不足の中、教師の負担は更に大きくなると思えますので、新特別支援学校が十分な対応ができるよう期待します。
また、文化会館動画配信設備整備事業に関連しまして、昨今、ライブ配信や動画配信サービスにより配信することが増えていきますので、同様のサービスを新総合体育館や総合運動公園等でも提供できると良いと感じました。
- 和智委員 不登校児童数が顕著に増加していることは、コロナの影響があると思えますが、教員の負担が増え、十分な対応ができないのではないかと、不安を感じています。
また、ららら学習室の参加数は堅調に推移していますが、8箇所それぞれの講師数は充足しているかが不安です。
- 林委員 先日学校訪問した時、非常に手厚い指導をされており、各務原市の教育が充実していることが分かりました。
また、文化会館動画配信設備整備事業については、インターネット配信を見て、会場に足を運ぶきっかけとなることを期待します。大堀委員の意見と同様で、他の施設でも、同様のサービスが導入されると、気軽に見ることができ、行ったことのない施設に足を運ぶ機会となりますので、検討をお願いしたいと思えます。
- 小島委員 先日学校訪問した時、学校から要望をききまして、緊急性が高いものやWi-Fi環境についても、学校によっては、電波が届かない状況があるとのことでしたので、順次対応をお願いしたいと思えます。
iPadで、配信やロイノートを使用した授業がなされており、コロナ禍の中で、必要なことであると思えます。欠席者に向けて黒板を映し、授業の風景を配信しているクラスもありました。学校に来ることがすべてではないと思えますが、学校に来ることで、子ども自身が感じることや学びは非常に多いと思えますので、学校に行かなくても手軽に授業を受けられてしまう状況については、不安を感じています。ICT機器を活用すること自体は大変良いですが、人と人のつながりを学ぶ大事な時期であることを考えると、そ

の後のフォローが大切であると思います。それ以外にも様々な課題があると思いますが、こうした場で意見交換しながら、改善していければよいと思います。

学校教育課長 教員不足については、苦慮しております。教員にかかる負担は、色々な子どもがいると、家庭訪問や電話連絡をしたりと、それなりに時間がかかることは事実です。一方で、県からスクールカウンセラー、市から心の教室相談員や特別支援アシスタントが派遣されており、少しずつ担任がやっていた仕事を少しずつカバーしているところです。どうしても担任が関わらなければならないことがありますので、その点については、引き続き担任が担当することになりますが、若い教員が増えてきていますので、担任一人が抱え込まないよう、学年体制や学校体制を整えた上で対応することで、一人の教員にかかる負担を、できる限り減らすような取り組みは、各学校で行っています。ららら学習室については、地域の方、保護者の方、教員のOB等、様々な方をお願いしています。学校で行っている部分については、それぞれの学校が人員を確保するようにしており、地域の方にお声がけするケースが多くなるかと思えます。教員の経験がない方でも、地域の方と関わっていただくこと自体が大切ではないかと考えています。地域差はあるものの、学校教育活動に理解いただき、ご協力いただける地域が多くあります。授業の中で地域講師に入ってもらえることもありまして、現在は、ご高齢の方が多いですが、保護者や次の世代の方にも入ってもらえると良いと考えています。

教 育 長 現在、特別支援学級には、より専門的な教育が受けられる特別支援学校で学ぶ方が多い児童生徒も在籍しています。新特別支援学校ができると、その子どもたちが特別支援学校に行くのではないかと予想しており、そうした場合、各学校の負担は減ると考えています。

また、不登校児童への対応についてですが、今年度より、小学校に心の教室相談員を配置しており、その結果、小学校の不登校に対する取り組みの意識を向上させています。教室に名前をつけたり、そこに担当者を付けていたりする学校があり、良い起爆剤になっていると思います。

ららら学習室については、地域の方が非常に多く活躍しています。ただし、8箇所を比較しますと、多少差がありますので、引き続き差を埋められるよう取り組んでいます。

市 長 ららら学習室については、市長になって翌年度にスタートしまして、多くの方にご協力をいただいています。まさに市と地域が総力をあげて教育を充実させてきたと考えています。また、この2年間子どもたちが思うように学校に行けなかった時期、活動が出来なかった時期、未だにこれは続いていると思いますが、子どもにとって、学校は大変重要なところであると認識をもってもらえていると思います。また、保護者の方々にも、学校の必要性を感じていただいていると思います。そうした中、学校現場を3年ぶりに訪問しましたが、子どもたちの集中力が以前より上がっているのではないかといい点、また、GIGAスクール構想がスタートして間もないところですが、上手に使い、上手に子ども達に興味を持たせるという点が、印象的でした。一方で、小島

委員のご意見のように、家でもタブレットで授業を受けられるとってしまう心配はあります。不登校対策について印象的だったのは、蘇原中学校の事例です。少年自然の家との交流をしていたと思いますが、その子たちがネットを通じて、自分の言葉で伝えられていました。他にも不登校だった子が登校できるようになった事例がありました。他の学校でも、心の教室相談員らの助力もあって、登校できるようになったというような事例も見られ、教員不足ではありますが、個々の能力を発揮して頑張っていると感じたところです。特別支援についても、同様に頑張りを感じています。行政側としては、教育にしっかりと対応していきたいと思っていますので、色々な意見を賜りたいと思います。

そして、先ほど、牧田参与から話がありました、新特別支援学校については、国・県の補助事業も活用しますが、市外の方からも応援していただきたいと考えております。新特別支援学校の開校にあたり、大型バス5台、その車両代として、1台あたり約二千万円が必要となります。企業版ふるさと納税を活用しまして、市内外の企業から応援金をいただき、これをバス代に充てたいと考えています。企業側にもメリットがありまして、企業規模にもよりますが、税控除が9割ほどあり、更にバスに広告を掲載します。周囲の方に、ご興味がある方がいらっしゃいましたら、牧田参与までご連絡をお願いします。

(2) ICT教育の現状と今後の展開について

市長 では、続いて「ICT教育の現状と今後の展開について」を議題としたいと思います。一昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大により、様々な教育環境の制約がある中、新たな教育活動の在り方を探り、創り出していくことが求められてきたところと思います。情報化が加速度的に進むSociety 5.0時代に向け、ICTを活用した教育の重要性が一層高まっている中、ICT教育の現状と今後の展開について、担当課長より説明をお願いします。

学校教育課長 (ICT教育の現状と今後の展開について、資料により説明)

市長 対面での教育を通じ、対話的な学びを通して、自己の考えを広げ深めたり、コミュニケーション能力を養ったり、社会性等を身に付けさせたりすることは、これまでと変わることなく極めて重要であると思います。一方で、ICT活用による効果や情報社会の進展などの社会の変化を鑑みますと、ICT機器を活用した教育も重要であると思われます。

ただいまの説明について、教育委員の皆さんから、ご意見を願います。

大堀委員 ICT教育により、今までできなかったことが出来るようになり、大変素晴らしいと思います。読み書き話すことを重要視し、ICT機器を道具として使うという基本路線は非常に重要であると思います。一方で、準備・フォローアップに時間を要している可能性、また、概ね肯定的な回答である中、教職員中の5%、児童生徒中8%がiPadを使った学習について否定的あるいはわからないと回答をしています。ICT教育は始まったばかりですので、

そうした少数の意見の中に改善点を見いだせるのではないかと感じました。

大友委員 アンケートでは、「iPad使用により学習が深まることに有効だと思う」と回答した教職員が95%という点は、個人的には意外でした。

課題も明確に示されており、その通りだと思います。従来の読み書き話すあるいは読み書き算盤といった学習方針について、日本が他国と比べ優れていた点は、反復学習であると私は考えています。私自身、既に電卓があった時代でも、筆算を正確性やスピードを測って、繰り返しやらされたことは、電卓の使い方の理解に繋がっていると感じています。

ICT教育の有効性については、全国的にも議論されているところだと思いますが、一番大切なのは、情報格差を生じさせないことだろうと私は考えています。情報処理、データベース的発想、検索といったことが、ICT機器の優れている部分であり、子どもたちのそうした能力が上がるようなジャンルがICT教育に向いていると考えています。すべての教科にICT活用が必要なのかという点については、いずれ取捨選択されることだと思います。ただし、こうした実験的な教育が長ければ長いほど、犠牲となる層が生まれてしまいますので、そうした層がないように対策をすることが、教育の務めかと思っています。

今後は、先生側への支援を増やしていくことが、先生方の負担を減らし、利便性を増すことにつながると思いますので、他県あるいは海外の事例を参考にしつつ、従来の日本の教育の良さも生かしていただき、色々な検証をしていただきたいと思っています。

林委員 先日学校訪問した時、iPadを使用した授業スタイルに衝撃を受けたところでした。正答率もすぐに表示され、弱点がすぐに分かるということを見て、家で娘が勉強しているとき、私も関わりながら、弱点と一緒に取り組んだことを思い出しました。ただ、保護者の方も忙しいために、なかなか関われないことがあると思いますが、家庭での関わり方も考える必要があると思いました。便利な反面、色々と取捨選択し、進めていただければと思います。ゆとり世代という言葉がありますが、もしかするとICT世代と呼ばれることがあるかもしれません。それが良い意味で、そう呼ばれると良いと思います。

また、Zoomで遠方と直接やり取りできるのは良いと思います。先日、会社見学にきていただいた時も、質問を求めたら、多くの挙手があり、子ども達の聞きたい、学びたい、やってみたいという気持ちを感じました。

和智委員 2年ほど前、各務原市にタブレットが入っていない頃、熊本の先進地映像を拝見しましたが、そのレベルまで短期間で各務原市も到達していると感じました。先生方は努力され、挑戦し活用していることが分かりました。

小テストや単元テストをスマイルドリルでやることにより、先生方の負担軽減等に良い効果があると思う一方で気になるのは、鉛筆の持ち方が悪く、姿勢も悪いので、書くのがかなり遅くなっているケースです。小学生の内に鉛筆で書く機会が少なくなっているのは心配ですので、その点も大切にしていきたいと思っています。また、学校で機会が減っている中、家庭での機会を

つくる等をできる家庭はやっていかないと、授業は充実したが結果伸びない、といったことになり、本末転倒かと思いました。

また、情報リテラシーの面では、子ども達が情報をすぐに手に入れることができる状況である点について、タブレット以外でも情報を収集できる能力や情報を取捨選択できる能力を身につけてほしいと思いますし、そういった教育を先生方には取り入れていただきたいと思います。

小島委員 幼稚園に入ってくる前の子が既に保護者のスマートフォンやiPadに触れる機会が増えているようで、幼稚園児でもYouTubeの存在を知っており、将来の夢も、第一位はYouTuberといった時代となっています。授業でのiPadの使い方もすごく上手に使いこなしていると思う反面、先生たちのアンケートの数値を見るとすごく高い数字が出ていることに驚いています。実際、授業を拝見した際、少し話題になりましたが、本当に使うべき場所で使われているかという点に疑問を感じました。先生方は、義務感で無理をして使っているのではないかと感じましたので、メリットがある部分は、使っていただきたいですが、そうではない部分は、切り離しが必要ではないかと思います。ロイロノートの使用率が高水準で推移する中、ソフト無しでは授業や活動に不都合を生じる段階まで活用が進んでいるという記述が気になりました。先生方のICT活用場面についても、今後検討が必要かと思えます。

教育長 まずは、ICT機器の活用方法については、教育委員会の責任もあると感じています。読み書き算盤や話すことを大切にすること、ICT機器を必要な場面で使うといった点については、課題を感じています。前提として、従来の授業を一人ひとりの先生がしっかりとできて、その上で、ICT機器をどうやって使うべきか考えるといった、先生方の指導力をつけなければならないと感じており、今後取り組んでいきたいと思えます。

市長 活用の仕方等の工夫や児童生徒と先生のコミュニケーションは、必要であると思えますので、様々な学びの機会を確保するように検討を重ねていただきたいと思えます。

(3) その他

市長 それでは、折角の機会ですので、その他の施策や学校教育、社会教育全体を通して、ご意見等がありましたら頂戴したいと思います。

大友委員 情報リテラシーについてですが、リアル空間でのいじめがありますが、バーチャル空間でも同様です。情報リテラシー教育だけではなく、情報空間内のサイバーパトロールといったこと、AIを活用した取り締まりといった、踏み込んだ取り組みが必要であると感じました。

市長 それでは、他に意見も無いようですので、議事を終了したいと思います。事務局においては、本日の意見等を今後の施策の展開に十分に反映していただきたいと思えます。

市長部局におきましても、未来を担う子どもたちのため、また、本市の教育のますますの発展のために、しっかりと教育委員会と連携し、“「ひと」を育

む”という観点からも教育行政を推進していきたいと考えておりますので、今後とも委員の皆様のご理解、ご協力をお願いします。では、進行を事務局に返します。

総務課長 本日は、長時間にわたりありがとうございました。次回の総合教育会議についてですが、10月頃を予定しております。
それでは、これもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。